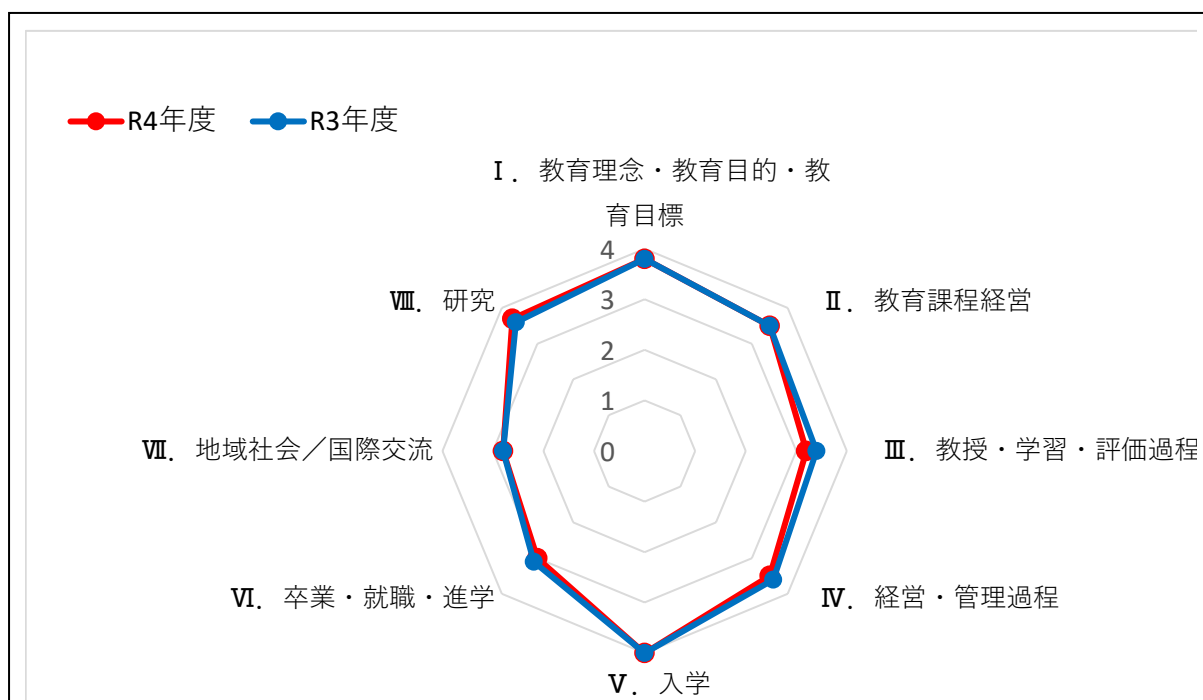


## 令和4年度 自己点検・自己評価結果

2023. 4. 3

評価内容（領域）	R4年度	R3年度
I. 教育理念・教育目的・教育目標	3.8	3.8
II. 教育課程経営	3.5	3.5
III. 教授・学習・評価過程	3.2	3.4
IV. 経営・管理過程	3.5	3.6
V. 入学	4.0	4.0
VI. 卒業・就職・進学	3.0	3.1
VII. 地域社会／国際交流	2.8	2.8
VIII. 研究	3.7	3.6

【評価基準】 4：当てはまる 3：ほぼ当てはまる 2：やや当てはまる 1：当てはまらない



### I. 教育理念・教育目的・教育目標

**【自己評価】**

- 教育理念・教育目的・教育目標は、学生便覧にも明示し、学生にもわかりやすい表現記載になっている。教育理念の「智慧」「創造」「誠実」は教育方法を検討する際に、常に意識し、教育活動に活かしている。
- 学年目標は、教育理念を意識して考えており具体的に表現している。

**【今後の課題】**

- 教育理念に沿った学習活動や教育活動となっているか、その実際を評価する機会を増やし確認する必要がある。

## II. 教育課程経営

### 【自己評価】

- 今年度、新旧カリキュラム並行運用となり、学生が履修規程について混乱しないように、学生便覧やシラバス等を活用し説明することで履修を進めることができた。特に留年生（1学年）に対しては留年生への説明と科目の置き換えや履修すべき科目を明確し説明し運用できた。
- コロナ禍で臨地実習が困難となった場合の学内学習が目標達成につながるよう、各担当教員が教材や課題を提示し教育している。看護実践を学ぶために様々な工夫とどのように評価するのか教員会議や実習指導者会議で検討している。今後も可能な範囲で臨床と連携しながら極力臨場感が伝わるよう工夫し進めていく。
- 業務基準に臨地実習指導における教員の役割を記述している。一部、専門領域以外の実習指導も実施している状況はあるが、教員の専門領域を考慮して実習配置できるよう調整している。実習指導者との連携を強化するために、担当教員は可能な限り実習科目や実習病棟を固定化し、実習指導できるようにしている。

### 【今後の課題】

- 各科目の学習内容を見直し、学習内容の重複やつながり、進捗を検討し、講義計画を調整していく必要がある。学習内容の検討については、マトリックスを作成し、科目の関連や構成・配列の根拠を明文化していく。
- 新カリキュラムを運用する中で、再検討すべき内容が明確になっている。また、実習評価についてはパフォーマンス評価の導入を検討途中であり、引き続き検討する。

## III. 教授・学習・評価過程

### 【自己評価】

- 各科目の位置づけについてはシラバスに記載されている。新設科目の授業内容の見直しは、カリキュラム委員会を中心に検討している。
- 感染対策を講じながら、演習やグループワークなど効果的な教育方法の選択、運用を行うことができ、学習支援につなげることができた。前年度、課題として挙げていたカリキュラムについては、実習担当者、カリキュラム担当者が各委員会で計画的に見直しできており、授業内容と教育課程の一貫性、授業内容間の関連と発展の改善が行えている。

### 【今後の課題】

- 今後、ICTを取り入れた教育方法を検討する。技術演習におけるシミュレーターを活用した技術演習を検討する。

## IV. 経営・管理過程

### 【自己評価】

- 国立病院機構の経営方針を踏まえ、自己評価や学校関係者評価での課題を改善するため運営方針・計画を立て実践している。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の状況をみながら、オープンカレッジ、学生祭、ボランティア活動を開催した。また、昨年度に引き続きオンラインによる進路相談を実施し、積極的にホームページを更新、学校紹介を行った。
- 学校運営にあたっては、地域のニーズを確認し臨機応変に対応していくことが重要と考え取り組んだ。病院方針の“ピンチをチャンスに変える”を実行すべく、学生確保につながるようオンラインで進路相談会や学生祭等を企画・運営するなど、新たなことへのチャレンジが増えた。
- 財政基盤を確保することの重要性は理解しているが、現実的には赤字運営であり、入学生が減少していることも事実であり、今後も財政基盤を確保することは難しいと考える。そのため、収支計画を踏まえ、学習環境が整えられるよう、一層計画的な教材、施設管理が重要となってくる。

### 【今後の課題】

- 自己点検自己評価表の見直しと、教員個々が明確なデータに基づく評価を行う評価力を更に身に着ける。
- 今後も継続的に自己点検・自己評価結果をフィードバックし、課題事項に対して早急に取り組んでいく。

## V. 入学

### 【自己評価】

- 募集活動として、高校訪問継続、近隣高校内での学校説明会、進路相談会への出席、オープンカレッジを継続して実施した。高校訪問では、新たに訪問校を6校増やした。
- 令和4年度もコロナウイルス感染拡大を受け、オープンカレッジでは在校生は参加できず、教員による開催となったが、当日は学生が準備したポスターや教材を使用するなど、学生の学びや学校生活をイメージしやすい工夫を行った。アンケートでは当校で看護を学びたい気持ちが強くなったなどの声も聞かれ、参加者の中から入試への応募者があり成果につながった。

### 【今後の課題】

- 今年度もコロナ感染の影響により高校教諭を対象とした学校説明会の再開はできていないが、感染状況をみながら可能であれば再開を検討する。
- 入学試験応募状況の分析、特別推薦などの入学者選抜方法について引き続き検討する。

## VI. 卒業・就職・進学

### 【自己評価】

- 国家試験対策は各学年が計画的に取り組んだ。1年生は、学習ノートを作成し解剖生理学、疾病治療論を中心として問題に取り組んだ。2年生は徐々に臨地での実習が増えたことから、領域別の国家試験問題に取り組み、模擬試験も実施した。3年生は、Moodleを学生個々が自己学習に活用できるように毎日看護師国家試験問題をMoodleに掲載し解答する習慣化を図った。
- 学生の就職、進学支援は、早期より個人面談を行い就職につなげた。

### 【今後の課題】

- 1年次より国家試験に向けた動機づけを行い日々の講義や臨地実習でも国家試験を意識した学びができるような教育方法を検討していく。
- NHOや県内の就職率の上昇に向け早期より就職への動機づけを行う。

## VII. 地域社会／国際交流

### 【自己評価】

- オンラインを用いた「進路相談座談会」「学生祭」「クリスマスボランティア」を学生と共に実施し参加者との交流を図りながら、地域に向けた学校としての情報発信を行った。また、依頼のあった献血には多数参加し、地域のニーズに対応できた。
- 近隣校の依頼に応じて教員を講師派遣したり、学生が防災サポーターに参加するなど地域とつながることを意識した活動をしている。

### 【今後の課題】

- 今後も感染拡大防止を行いながら、積極的に地域交流を図るために何ができるかを考えていく。
- 現在コロナ禍で中止となっているアジア国際小児医療学会（AMCCH）への参加が可能となれば参加できるように準備していく。

## VIII. 研究

### 【自己評価】

- 各自の教員が研究活動に必要な図書の購入や、学会への参加等、時間的、財政的、環境的に保障されている。
- 全員の教員が他の教員の看護技術演習補助に入り、自己研鑽につながっている。

### 【今後の課題】

- 講義や実習指導上の課題に関する研究動機はもっているため、早めに研究計画書を立て、計画的に研究に取り組み、成果を発表していく。また、偏りなく教員全員が研究あるいは研究授業に取り組むように計画していく。